

福島国際研究教育機構の動向

～未来を拓く科学技術力・産業競争力の
拠点を目指して～



F-REI
福島国際研究教育機構

福島国際研究教育機構

Fukushima Institute for Research, Education and Innovation (F-REI)

令和6年7月23日

研究開発の進捗状況と見通し

F-REIは、日本や世界の抱える課題、地域の現状等を勘案し、その実施において福島の優位性を発揮できる5分野を基本として取り組む。

【現状】

- 各分野を戦略的に推進するため、4名の分野長及びそれを補佐する7名の副分野長を任命。各分野長の下で委託研究先の選定等を進めた。
- 5分野27テーマの委託研究について、順次研究委託先を公募し、選定・協議の上、55件の委託研究開始。

① ロボット分野 <公募テーマ名等>	<代表機関名（コンソーシアム参加機関）>
● 困難環境下でのロボット・ドローン活用促進に向けた研究開発事業	
(1) 災害現場など困難環境での活用が見込まれる強靱なロボット・ドローン技術の研究開発	・東北大学（NICT、広島大学、筑波大学、制御システムセキュリティセンター）
(2) 多数のロボット・ドローンによる協調作業を実現する技術の研究開発	・東京工業大学（熊本大学、産総研）
(3) 湖沼、森林内などでの調査に対応するロボット・ドローンの研究開発	・会津大学 ・千葉大学（日本分析センター）
● フィールドロボット等の市場化・産業化に向けた性能評価手法の標準化事業	・福島大学 ・(株)日刊工業新聞社
● 防災・災害のためのドローンのセンサ技術研究開発事業	・信州大学（千葉大学、慶応義塾大学）
● 廃炉向け遠隔技術高度化及び宇宙産業への応用事業	・大阪工業大学 ・広島大学（産総研、量研機構） ・北海道大学（産総研、大熊ダイヤモンドデバイス(株)、福島高専）
② 農林水産業分野	
● 福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進	
(1) 土地利用型農業における超省力生産技術の技術開発・実証	・農研機構（東京大学、ヤンマーアグリ(株)、(株)M2Mクラフト）
(2) 輸出対応型果樹生産技術の開発・実証	・農研機構（福島県農業総合センター、福島大学、神奈川県農業総合センター、京都大学、筑波大学） ・産総研（福島県農業総合センター） ・産総研
(3) 先端技術を活用した鳥獣被害対策システムの構築・実証	・農研機構（兵庫県立大学、鳥羽商船高専、(株)アイエスイー、東京工業大学、(株)トレスバイオ研究所、三重県、福島県） ・東京大学
(4) 施設園芸におけるエネルギー循環利用技術体系の構築と実証	・産総研（農研機構、国際農研、東京大学、(株)武田鉄工所、(株)水循環エンジニアリング） ・福島大学（岡山大学、岐阜大学）
(5) 化学肥料・化学農薬に頼らない耕畜連携に資する技術の開発・実証	・東北大学（福島大学、新潟大学、福島県、農研機構、産総研、全酪連酪農技術研究所）
(6) 未利用農林水産業資源を活用した新素材の開発	・東北大学（福島大学、苫小牧工業高専、トレ食(株)）
(7) 福島浜通り地域等の農林水産業復興の将来方向性に関する研究	・福島大学（PwCコンサルティング）
(8) 福島浜通り地域等の農林水産業復興に資する研究事業 （提案公募型募集）	・農研機構（日本全薬工業(株)） ・北海道大学 ・福島大学（理化学研究所、京都大学、東京大学、北海道大学、筑波大学） ・東北大学（福島県農業総合センター） ・住友林業(株)（東京電機大学、(株)ギガソーラー、(株)東日本計算センター、遠野興産(株)、(株)エム・シー・エフ、(公財)福島イノベ機構、合同会社ビスベル）

R6に新規公募を実施：（1）土地利用型農業における超省力生産技術の技術開発・実証、（9）林業の自動化に資する技術開発・実証（提案公募型募集）

③ エネルギー分野

●ネガティブエミッションのコア技術の研究開発・実証事業

(1) 植物のCO2固定及びネガティブエミッションへの利用に関する研究開発と実証	・三重大学（大阪公立大学） ・東京都立大学（鳥取大学、国際農林水産業研究センター、国立遺伝学研究所） ・岡山大学（福島大学、東京農工大学、理化学研究所、山形大学、東北大学、名古屋大学） ・福島大学（常磐共同火力㈱）
(2) 藻類のCO2固定及びネガティブエミッションへの利用に関する研究開発と実証	・理研食品(株)（理化学研究所、長崎大学） ・三重大学（京都工芸繊維大学、京都大学、Bio-energy(株)） ・日本製鉄(株)（金属系材料研究開発センター） ・東北大学（鹿島建設㈱）
●バイオ統合型グリーンケミカル技術の研究開発事業	・東京大学
●水素エネルギーネットワークの構築事業	・電力中央研究所 ・東京大学（東北大学、京都大学）

④-1 放射線科学・創薬医療分野

●加速器を活用したRIの安定的かつ効率的な製造技術の開発	・大阪大学（量研機構、東北大学、東京大学、新潟大学） ・福島県立医大 ・理化学研究所
●RIで標識した診断・治療薬に関する研究開発	・福島県立医大（大阪大学、量研機構） ・東京大学（理化学研究所、東京工業大学、(株)千代田テクノル）
●農作物の生産性向上等に資するRIイメージング技術の開発等事業	・量研機構（東京大学、筑波大学、東北大学、名古屋大学、北海道大学、近畿大学、東京農業大学、高知大学、(株)プランテックス）

④-2 放射線の産業利用分野

●超大型X線CT装置等を活用した産業のデジタル化技術の開発等に関する調査研究事業	・CPE技術研究組合
--	------------

⑤ 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

●環境中の放射性物質の動態への人間活動の影響・移行抑制対策効果の評価手法開発事業	・日本原子力研究開発機構
●原子力災害からの復興に向けた課題の解決に資する施策立案研究事業	・長崎大学（福井大学、福島大学、伝承館） ・東京大学（伝承館、(株)サーベイリサーチセンター） ・福島大学（京都大学） ・福島学院大学 ・福島県立医大
●まちづくり研究及びラーニング・コミュニティハブ整備事業	
(1) 福島浜通り地域におけるまちづくり研究	・東北大学（福島大学） ・福島高専 ・東京大学
(2) 福島浜通り地域におけるラーニング・コミュニティハブの整備	・東京大学 ・宇都宮大学（福島高専）

ユニットリーダーの紹介

分野	ユニット名	ユニットリーダー（）は兼務先
ロボット分野	遠隔操作研究ユニット 実際に触る感覚（力触覚）を伝送する技術を活用し、過酷環境において、実働に供与できる作業効率と信頼性を高めた遠隔操作技術の研究開発を行う	大西 公平（慶應義塾大学特任教授） 東京大学大学院修了（工学博士） 慶應義塾大学理工学部にて教育と研究に従事 同大ハプティクス研究センターセンター長 同大新川崎先端研究教育連携スクエア特任教授 
	自律化・知能化・群制御研究ユニット ロボットの自律性を高度化するため、AI等を用いた知能化、複数のロボットを協調的に制御する技術の研究開発を行う	富塚 誠義（カリフォルニア大学バークレー教授） 慶應義塾大学大学院修士課程修了 マサチューセッツ工科大学にてPhD（工学博士）を取得 カリフォルニア大学バークレー校にて教育と研究に従事 
農林水産業分野	土壌・植物マルチダイナミクス研究ユニット 土壌環境と植物栄養の相互の影響を多面的に探求し、作物の収量拡大と農業の継続性向上を実現する	二瓶 直登（福島大学教授） 東北大学大学院博士前期課程修了 福島県農業総合センターに勤務し、東京大学大学院農学生命科学研究科修了（農学博士） 現在は福島大学食農学類にて教育と研究に従事 
原子力災害に関するデータ・知見の集積・発信分野	放射生態学ユニット 放射性物質の植物や淡水魚等への移行や蓄積に関する室内実証実験による現象の理解を踏まえ、これらに関与する因子の探索から、移行や蓄積量の低減化の方策について検討を行う。	青野 辰雄（専任） 近畿大学大学院化学研究科修了（理学博士） 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線総合研究所福島再生支援研究部にて環境動態研究に従事 

※ユニットリーダーの下にユニットサブリーダー、研究員等を今後配置予定

連携大学院制度を活用した人材育成の取組

連携大学院制度は、大学と機構が協力し、機構における先端科学の研究開発機能を活用しながら学位を付与することで高度な専門知識や技術を持つ研究者を育成する制度。

これまでの取り組み

- 令和6年3月8日に東北大学大学院医学系研究科と「放射線環境生体医学連携講座」の設置に関する協定を締結。

連携講座の概要

- 環境物質の生体影響に知見のある医療人材の育成
 - ・放射性物質を含む種々の環境物質が、人々の健康に与える影響とそのメカニズムの研究、さらに災害関連疾患の予防や治療にあたる医療人材を育成。
- 放射線や種々の環境物質と生体応答の関係の研究推進・発展
 - ・研究シーズの発掘から信頼できるデータに基づいた一般市民の放射能への不安感の払しょく、そして復興へ。



《 連携大学院（連携講座）の設置 》
『放射線環境生体医学連携講座』



広域連携ワーキンググループは、福島浜通り地域等において、人々の夢と希望となる30年後の社会を見据えた未来課題の解決及び地域の魅力創出につながるよう、F-REIと地域の市町村等が連携して、福島をはじめ東北の創造的復興に寄与するため設置するもので、F-REIが取り組む新産業創出等の研究開発、産業化、人材育成等の効果が広域的に波及するよう、福島浜通り地域等を中心とする市町村等による様々な形でのパートナーシップによる連携等について調査及び検討を行うもの。

1. 開催日時 令和6年7月2日（火） 14:00～16:00
広野町公民館 大会議室
2. 構成員 復興庁、福島県、いわき市、相馬市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構
3. 議事概要
 - (1) F-REIの研究開発の進捗状況等について（報告）
 - (2) F-REIの産業化、人材育成等の取組について（報告）
 - (3) 市町村座談会について（報告）
 - ⇒ 研究開発の進捗状況、産業化、人材育成の取組状況、令和6年度の市町村座談会について報告
 - (4) 市町村等の広域連携に関する取組について（意見交換）
 - <研究開発・産業化等>
 - ⇒ ・F-REIの委託研究が円滑かつ着実に進むようサポート
 - ・地域産業が抱える人材不足等の課題に対応するための「産業効率化地域プラットフォーム」の構築
 - <人材育成>
 - ⇒ ・国際バカロレア教育、STEAM教育の導入検討
 - ・地域に開かれた魅力的な義務教育学校設置に向けた検討
 - <その他>
 - ⇒ ・F-REI認知度向上のために、F-REIブースが設置可能なイベントの提案
 - ・外国人研究者等が安心して生活できる環境整備のための外国人おもてなしガイドブックの情報共有



令和6年度市町村座談会等について（中通り、会津地域）①



令和6年6月14日に締結した「福島国際研究教育機構、福島イノベ構想推進機構及び福島県による包括連携協定」に基づく3者による連携した取組として、福島イノベーション・コースト構想の理解醸成や地域の企業等の関連事業への参画及び進出企業・関連企業との連携や商取引等の促進を図る「イノベ構想参画促進セミナー」及びF-REIが研究開発等に関する多様なシーズやニーズを把握するための市町村長のほか、地域で活躍する人材や企業等と直接対話する「市町村座談会」を県内4地域（県北、県中、県南、会津）において合同で開催するもの。

座談会の概要

【趣旨】

福島イノベ構想への企業等の参画促進及びF-REIへの理解醸成とF-REIの広域的な連携の促進

【内容】

市町村長のほか、地域で活躍する人材や企業等との直接対話
多様なシーズやニーズを把握するための現地視察や意見交換

【プログラム（例）】

<1日目>

第1部 イノベ構想参画促進セミナー

- ・福島イノベ構想の説明
- ・イノベ構想参画企業等による事例発表

第2部 市町村座談会

- ・山崎理事長によるF-REI取組概要説明
- ・地域内のキーパーソンとの座談会

<2日目>

地域内の先進的な企業等の現地視察、意見交換（3か所程度）

開催予定

令和6年7月18～19日	県中地域（開催地：郡山市）
10月	県北地域（開催地：福島市）
11月	会津地域（開催地：会津若松市）
令和7年1月	県南地域（開催地：白河市）



令和6年度市町村座談会について（中通り、会津地域）②



つながり、ひろがる、ふくしまの未来。

イノベ構想参画促進セミナー・F-REI市町村座談会 県中地域

2024 7/18 木

14:00～17:00 (開場 13:00)

定員

セミナー・座談会 150名

交流会 80名

申込締切日 7/16(火)

会場

ホテルハマツ

「3階 左近・橋」

福島県郡山市虎丸町3-18

参加無料

交流会は有料となります。

イノベ構想への参画促進、福島国際研究教育機構(F-REI)への理解醸成とF-REIとの広域的な連携を促進するため、市町村、住民、企業・団体等が集い、ともに「ふくしまの未来」を共有できるセミナー・座談会を行います。

〈第1部〉イノベ構想参画促進セミナー

イノベ構想について

公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 専務理事 戸田 光昭

企業事例発表①

テーマ：地元企業としてのイノベ構想参画へのチャレンジと取り組み

福島コンピューターシステム株式会社 執行役員CSO兼業務革新センター長 田母神 正彦氏

企業事例発表②

テーマ：革新的アスターコイル技術で目指す脱炭素社会への貢献とイノベーション

株式会社アスター 代表取締役社長 本郷 武延氏

〈第2部〉F-REI市町村座談会

F-REI理事長による説明

テーマ：福島国際研究教育機構の創造的復興への挑戦

福島国際研究教育機構(F-REI) 理事長 山崎 光悦

F-REI市町村座談会

県中地域市町村長

福島県農業総合センター 所長 小久保 仁子氏

郡山商工会議所青年部 会長 高橋 晋也氏

福島県立岩瀬農業高等学校 校長 高橋 豊治氏

株式会社福島タネセンター 代表取締役 橋本 克美氏

須賀川瓦斯株式会社 代表取締役社長 橋本 直子氏

福島県医療福祉機器産業協議会 会長 林 由美子氏

F-REI 理事長 山崎光悦 他

交流会 17:15～18:15

こんな方は是非ご参加ください！

交流会対象者：自治体、企業、大学、教育機関、商工関係団体、産業支援団体、農業団体等

交流会への参加には、参加費2,000円がかかります。

「イノベ構想参画促進セミナー」のネットワークを作りたい！「イノベ構想推進事業」に取り組みたい！「F-REI」の取組を更に詳しく知りたい！「F-REI」の研究開発などに関わりたい！etc.

福島県の特産食材を使用したお料理や農産物を生食・加工・加工品形式で試してみながら、自由に交流、情報交換を行っていただく。業界を超えた交流の場を提供します。会場提供の魅力を最大限に活用するチャンスも出展予定

参加申込方法

下記の応募フォームから必要事項をご入力の上、お申込みください。

お申込みはこちら

お申込みサイト <https://www.event-form.jp/event/2024/2578>

オンライン同時配信

当日会場にお申し込みの方はオンラインにて同時配信いたします。

つながり、ひろがる、ふくしまの未来。

イノベ構想参画促進セミナー・F-REI市町村座談会 県中地域

タイムスケジュール	TIME SCHEDULE
13:00	開場・受付
14:00	開会・あいさつ
14:10～	〈第1部〉イノベ構想参画促進セミナー
14:10～	イノベ構想について 公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 専務理事 戸田 光昭
14:30～	企業事例発表① テーマ：地元企業としてのイノベ構想参画へのチャレンジと取り組み 福島コンピューターシステム株式会社 執行役員CSO兼業務革新センター長 田母神 正彦氏
14:50～	企業事例発表② テーマ：革新的アスターコイル技術で目指す脱炭素社会への貢献とイノベーション 株式会社アスター 代表取締役社長 本郷 武延氏
15:10	名刺交換・休憩
15:30～	〈第2部〉F-REI市町村座談会
15:30～	F-REI理事長による説明 テーマ：福島国際研究教育機構の創造的復興への挑戦 福島国際研究教育機構(F-REI) 理事長 山崎 光悦
15:50～	F-REI市町村座談会
17:00	閉会 (17:15～18:15 交流会)

福島イノベーション・コースト構想とは

福島イノベーション・コースト構想は、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。6つの重点分野におけるプロジェクトの具体化を進めるとともに、産業集積の実現、教育・人材育成、交流人口の拡大、情報発信等に向けた取組を進めています。

F-REI(エフレイ)とは

福島国際研究教育機構(F-REI:エフレイ)は、福島復興再生特別措置法に基づき、令和5年4月1日に設立された特殊法人です。福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指しています。

アクセス

ACCESS

郡山IC

← 車で 約15分 →

郡山駅

← 車で 約5分 →

徒歩で 約20分 →

ホテルハマツ

◆駐車場は無料ではありませんので、できる限り公共交通機関をご利用ください。また、このようご案内いたします。
◆駐車場の限られた際には、スタッフの案内に応じていただく場合があります。

お問い合わせ CONTACT US

イノベ構想参画促進セミナー・F-REI市町村座談会運営事務局

TEL.024-973-7481

※国または個人情報は「イノベ構想参画促進セミナー・F-REI市町村座談会」に関するもののみです。※プログラムは予告なく変更になる場合があります。

オンライン同時配信

当日会場にお申し込みの方はオンラインにて同時配信いたします。

連携協力に関する基本合意書（MOU）等の締結

研究開発等の機構のミッションを円滑に進めるとともに、機構設置の効果を広域的に波及させるため、福島や全国の大学、教育機関、研究機関、企業、市町村等との効果的な広域連携を進めることとし、基本合意書（MOU）や包括連携協定等を締結。

連携協力に関する基本合意書等の概要

○内容

研究開発・人材育成等における連携、双方の資源を有効的に活用した協働活動等、締結先に応じた協定を締結。

○締結先一覧

締結日	締結先
令和5年4月1日	福島高専
令和5年4月5日	福島県立医科大学
令和5年4月15日	いわき市
令和5年5月17日	福島大学
令和5年5月29日	浪江町
令和5年5月30日	会津大学
令和5年9月1日	南相馬市
令和6年1月25日	株式会社東邦銀行（包括連携協力協定）
令和6年3月8日	東北大学
令和6年6月7日	学校法人昌平黌（東日本国際大学など）
令和6年6月14日	福島県（福島ロボットテストフィールドの統合に関して）
令和6年6月14日	福島イノベーション・コースト構想推進機構、福島県（包括連携協力協定）
令和6年7月8日	福島県、JAEA、NIES（環境創造センターにおける連携協力に関して）
令和6年7月23日	量子科学技術研究開発機構（包括連携協力協定）



福島高専との連携協力



浪江町との連携協力

国際アドバイザー

概要

F-REIでは国際的な知見を有する外部有識者からF-REIの運営等に関し助言をいただくため、外国人有識者4名に国際アドバイザーとして就任いただいている。

アドバイザー

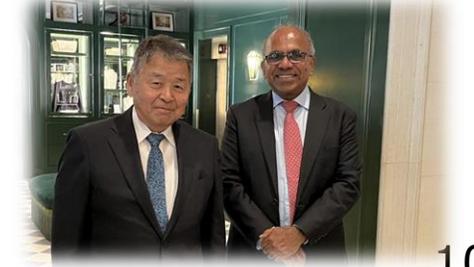
	スヴァンテ・リンドクヴィスト博士	スヴァンテ・リンドクヴィスト博士は、科学技術史学の国際的に著名な研究者で、スウェーデン王立アカデミー会長(2009-2012)や、スウェーデン王宮府長官(2010-2018)を務めました。またスウェーデンのストックホルムにノーベル博物館を創設し、初代館長を11年間にわたり務めました。日本とスウェーデンの学術交流にも大きく寄与しており、日本学士院客員も務めています。
	ライムント・ノイゲバウアー博士	ライムント・ノイゲバウアー博士は、ドイツに拠点を置き世界をリードする応用研究機関であるフラウンホーファー研究機構の理事長(2012-2023)を務めました。ノイゲバウアー博士はドレスデン工科大学で機械工学を学び、フラウンホーファー工作機械・成形技術研究所長(1994-2012)やケムニッツ工科大学(TU Chemnitz)工作機械・生産過程研究所所長(2000-2012)を務めました。ノイゲバウアー博士は、2022年からドイツ首相未来評議会委員を務めています。
	フィオナ・レイモン博士	フィオナ・レイモン博士は原子力分野において30年間にわたり戦略的・運用上の貢献をしてきました。化学・工学の専門家として英王立工学アカデミー、英王立化学協会、及び英国立原子力研究所のフェローを務めています。国際原子力会議において、定期的に基調講演を行っているほか、経済協力開発機構/原子力機関(OECD/NEA)運営委員会副議長も務めています。また、科学における参加の多様性拡大を長年支援し、原子力分野における女性や障害者などの参加の取組を先導しています。
	スブラ・スレッシュ博士	スブラ・スレッシュ博士は、材料科学・工学、機械工学、生物工学及び健康科学技術の分野における国際的に著名な研究者であり、米国立科学財団(NSF)の長官(2010-2013)を務めました。スレッシュ博士のリーダーシップの下、NSFのプログラムやイニシアチブにより、米国は科学・工学の最先端にあって、次世代の科学者・工学者を育成し、経済成長とイノベーションを進展させました。また、スレッシュ博士はカーネギーメロン大学学長(2013-2017)及び南洋工科大学学長(2018-2022)を歴任しました。

活動状況

昨年11月に欧州在住の3名(リンドクヴィスト博士、ノイゲバウアー博士、レイモン博士)のアドバイザーと面会。

今年7月10日に米国でスレッシュ博士と面会。

- ・F-REIを国際的な世界トップレベルの研究拠点にするためのマネジメントの在り方
 - ・国外から優秀な研究者等を獲得するためにふさわしい待遇や研究環境、生活環境
 - ・研究の方向性
- などについて意見交換を行った。



福島ロボットテストフィールドの福島国際研究教育機構への統合（イメージ）

RTF統合の基本的な考え方 （令和6年6月14日 福島県・F-REIの基本合意書より）

本統合は、（中略）RTFのこれまでの機能及び成果をF-REIが継承するとともに、ロボット分野を中心とするF-REIの研究開発、産業化、人材育成に関する機能をRTFに付加することにより、RTFの更なる発展・活用を目指すために行われるものである。このため、F-REIは、統合後のRTFについて、世界に類を見ない開発実証拠点としての機能を維持・発展させつつ、F-REIとして必要な研究開発や実証等の拠点として活用するものとする。また、F-REIは、福島県の協力の下、RTFの活用を通じて、世界水準の研究とその成果の社会実装・産業化を進め、RTFを利用する企業・研究機関との共同研究等によりその成果の最大化を目指す。あわせて、福島県は、F-REIが統合後のRTFを円滑かつ効果的に運営することができるよう、F-REIと緊密な連携を図るものとする。

【現在】福島県有の「公の施設」

統合期日：令和7年4月1日

【統合後】F-REIの施設



(注) 現物出資等については、福島県議会の議決や主務大臣の認可等の必要な手続きを経ることが必要

- ※1 当分の間、現行の指定管理業務の内容を踏まえ、委託（当初の委託期間はR7～R11年度までの5年間とし、R9年度に見直し等を協議）
- ※2 入居企業等については、従前どおり審査し、継続的に入居を許可
- ※3 利用企業等については、F-REIとの利用調整を図りながら、利用を許可

環境創造センターにおける連携協力に関する基本協定等の締結について

7月8日、福島県、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）、国立研究開発法人国立環境研究所（NIES）と環境創造センターにおける連携協定に関する基本協定及び実施協定を締結。

協定の概要

- 本協定は、F-REI基本構想（令和4年3月29日復興推進会議決定）において、放射性物質の環境動態研究の一体的・総合的推進を図る観点から、JAEAとNIESとが三春施設において行っている環境動態研究をF-REIに統合するとされていることに関する協定
- 4者が密接な連携の下で各機関の人材、知見等を活用することにより、環境創造センターにおける福島県の環境回復及び環境創造への取組を推進することが目的



今後について

- 環境創造センターについて、原子力災害からの環境回復、環境創造を進めるための総合的な拠点として、福島県、JAEA、NIESでの協力を継続することが必要であり、当機構が新たに連携協力体制に加わることで、さらなる体制の拡充につながると期待されており、4者の資源を有効に活用し、世界に誇る福島や東北の「創造的復興を牽引するための活動」に寄与していく。